

施策評価シート

幹事部局

土木部

施策の名称	VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理
施策の目的	道路の効率的・計画的な整備や維持管理により、県民の安心・安全、快適な日常生活や産業活動を確保します。
施策の現状 に対する評価	<p>(幹線道路網・生活道路の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は、幹線道路・生活関連道路の34工区を供用開始したが、県内の国道・県道の2車線改良率は平成30年4月現在で69.1%と、全国平均77.2%を依然として下回っており、残っている狭隘な区間や線形の悪い区間の整備が課題である。 <p>(道路網の維持管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期点検は、5年に1回の頻度で実施できているが、早期に措置を講ずべき健全性Ⅲ施設の修繕工事が点検後5年以内に実施できていないという課題がある。 舗装修繕は、舗装維持管理計画に基づき修繕を実施している。 <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <p>(道路の維持管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 落石や路面の陥没等、道路の異常を道路利用者から通報してもらえるよう、「道と川の相談ダイヤル」や「パトレポしまね」の広報を行った。 道路パトロールシステム(試行版)を導入することで、正確な情報を道路管理者とパトロール委託業者とで、迅速に共有できるようにし道路の監視強化を図った。
今後の取組 の方向性	<p>(幹線道路網・生活道路の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> 幹線道路網については、従来の「幹線道路」のうち、災害時や緊急時の輸送路として重要な役割を担う道路を「骨格幹線道路」に位置づけ、集中投資を行う。 生活道路の整備にあたっては、地域の地形や道路の利用状況に応じて、1.5車線の改良整備を活用し、効率的・効果的に事業を行い、整備の進捗を図る。 <p>(道路網の維持管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 規模の小さい橋梁の点検は職員で行い、漏水など損傷原因が明らかな施設の修繕は修繕設計業務を行わずに概算数量発注を行うなど、点検、修繕工事のコスト縮減を図るとともに、早期に措置を講ずべき施設の修繕工事を令和5年度末までに完了するよう、重点的に取り組む。 「道と川の相談ダイヤル」と「パトレポしまね」の周知を行うため、市町村が発行する広報誌や道の駅にチラシを配架するなど情報発信を行い、利用者の増加を図る。

事務事業の一覧

施策の名称		VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	県代行市町村道路整備事業	市町村中心部から遠い集落に居住する住民	市町村中心部へのアクセス時間を短縮する	69,563	134,363	道路維持課
2	道路維持修繕事業	道路利用者	道路を安全で快適に利用できる状態に維持する	6,018,694	9,032,051	道路維持課
3	道路愛護意識等啓発事務	道路利用者・地域住民	道路を大切に利用する心を育てる	27,770	32,253	道路維持課
4	骨格幹線道路整備事業	県民・道路利用者	高速道路と市町村中心部間や、県内外の都市間を、安全・快適に移動できる道路空間の形成	6,617,126	9,026,023	道路建設課
5	生活関連道路整備事業	県民・道路利用者	一定規模以上の集落や観光地等と骨格幹線道路や市町村中心部間を、安全・快適に移動できる道路空間の形成	12,552,019	18,029,779	道路建設課
6	街路整備事業	市街地の街路利用者	街路整備により、都市内移動を安全で快適にする。	2,047,375	3,463,644	都市計画課
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

道路維持課

事務事業の名称		県代行市町村道路整備事業			
目的	誰(何)を対象として	市町村中心部から遠い集落に居住する住民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	市町村中心部へのアクセス時間を短縮する		69,563	134,363
			うち一般財源 (千円)	1,933	3,766
今年度の取組内容	過疎地域自立促進特別措置法、山村振興法又は半島振興法に基づき、基幹的な市町村道の新設および改築を道路管理者である市町村に代わって県が行う県代行事業で整備することにより、市町村中心部から遠い集落に居住する県民の中心部へ通じる道路の供用を図る				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	より近傍の残土処理場を確保し、コスト縮減を図る				
1	上位の施策	VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県代行市町村道路整備事業の進捗率【当該年度3月時点】	目標値		75.0	81.0	87.0	93.0	100.0	%	累計値
		実績値	68.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		事業費ベースの進捗率 R2年度までの事業費/全体事業費=1,705百万円/2,286百万円=75% R3年度までの事業費/全体事業費=1,845百万円/2,286百万円=81% R4年度までの事業費/全体事業費=1,985百万円/2,286百万円=87% R5年度までの事業費/全体事業費=2,125百万円/2,286百万円=93% R6年度までの事業費/全体事業費=2,286百万円/2,286百万円=100%								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	R元年度末の事業進捗率は、68% 引き続き交付金事業の予算を確保し、着実な事業進捗を図る。
課題分析	① 課題	バイパス計画であるため、計画区間全体を供用しなければ事業効果が発現しないため、事業途中では県民に事業効果が見えにくいため、早期の供用が必要。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因 現在施工中の工区は大規模土工を伴うが、残土搬出ができる道路が限られることから、崎地区側一方向からの片押しによる施工となり、年間の施工量が限られる。
	③ 方向性	より近傍の残土処理場を確保し、コスト縮減を図り、早期供用に向けて取り組む。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

道路維持課

事務事業の名称		道路維持修繕事業			
目的	誰(何)を対象として	道路利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	道路を安全で快適に利用できる状態に維持する		6,018,694	9,032,051
今年度の取組内容	道路を安全で快適に利用できる状態に保つため、以下の取り組みを継続して実施する。 ・橋梁等の道路施設の老朽化対策(1巡目点検で健全性Ⅲ)をR5年度までに完了 ・「道路パトロール」により変状等を早期に発見し、適切な修繕を迅速に実施 ・除草その他、交通機能を確保するための維持修繕の実施 ・「道と川の相談ダイヤル」「ハレポしまね」の広報を実施 ・道路パトロールシステムの本格運用 ・舗装維持管理計画の見直し				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	落石や路面の陥没等、道路の異常を道路利用者から通報してもらえるよう、「道と川の相談ダイヤル」や「ハレポしまね」の広報を行った。また道路パトロールシステム(試行版)を導入することで、正確な情報を道路管理者とパトロール委託業者とで、迅速に共有できるようにし道路の監視強化を図った。				
1	上位の施策	VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	健全度Ⅲとした橋梁の修繕率【当該年度3月時点】	目標値		45.0	61.0	76.0	100.0	100.0	%	累計値
		実績値	23.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-		
2	道路管理瑕疵(穴ぼこ)による事故発生件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値
		実績値	3.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・法により、5年に1回の近接目視点検が義務付けられた橋梁やトンネルについては、点検結果をもとに計画的に修繕工事を行っている。また、その他の道路施設(法面等構造物、舗装)についても、点検要領等を策定し計画的に点検・修繕を行っている。 【修繕工事完了率(全国平均)】:H31.3月末現在) 橋梁14%(13%)、トンネル35%(15%) ・道路の安全性確保に支障をきたす変状を速やかに発見し対処するため、路線(区間)の交通量に応じて週1～2回の頻度で道路パトロールを実施している。【事故件数】H28年度24件、H29年度25件、H30年度20件								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	1. 定期点検は、5年に1回の頻度で実施できているが、健全性Ⅲ施設の修繕工事は点検後5年以内に実施できていない。 【定期点検(R1年度)】 橋梁541橋、トンネル34本、シェッド・シェルタ-17基、法面515箇所 【修繕工事(R1年度)】 橋梁41橋、トンネル13本、シェッド・シェルタ-4基、法面46箇所 2. 舗装修繕は、舗装維持管理計画に基づき修繕を実施している。 【修繕工事(R1年度)】 舗装14Km 【ハレポしまねのダウンロード数(累計)】 H29年度 2,894件、H30年度 4,145件、R1年度 4,773件
課題分析	① 課題	1. 健全性Ⅲ施設の修繕工事を点検後5年以内に行うための予算が不足している。 2. 穴ぼこを早期に発見するために、毎日道路パトロールを行えばよいが、パトロールを委託する予算が無い。そのため、道路利用者から道路異常の情報を広く収集する必要があるが、「ハレポしまね」の利用者数は伸び悩んでいる。
	② 原因	1. 点検や修繕設計業務に予算を使っているため、修繕工事を行う予算が十分確保できない。 2. 「道と川の相談ダイヤル」や「ハレポしまね」の周知が十分でなく、その存在が道路利用者にも広く伝わっていない。
	③ 方向性	1. 規模の小さい橋梁の点検は職員で行い、漏水など損傷原因が明らかな施設の修繕は修繕設計業務を行わずに、概算数量発注を行いコスト削減を図る。 2. 「道と川の相談ダイヤル」と「ハレポしまね」の周知を行うため、市町村が発行する広報誌や道の駅にチラシを配架するなど情報発信を行い、利用者の増加を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

道路維持課

事務事業の名称		道路愛護意識等啓発事務				
目的	誰(何)を対象として	道路利用者・地域住民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	道路を大切に利用する心を育てる		27,770	32,253	
			うち一般財源 (千円)	0	32,253	
今年度の取組内容		・ハートフルしまね(道路部門)では、道路を安全かつ快適に利用できるよう、清掃や美化等のボランティア活動に意欲を持つ団体を認定し、協働していく(保険加入、交付金等)。 ・道路愛護団体等表彰事務では、道路愛護意識の普及を図るため、道路愛護に貢献のあった個人及び団体を表彰する。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと						
1	上位の施策	VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	ハートフルしまね(道路)登録団体の活動率【当該年度3月時点】	目標値		90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	%	単年度値
		実績値	82.1							
		達成率	-	-	-	-	-	-		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・登録団体認定数は着実に増加しており、県民のボランティア意欲や道路愛護意識の高さを表している。 ・一方で、団体数の伸びは頭打ち傾向であり、今後は、実際に活動する団体を確保することが課題となり、9割の実働率維持を目標とする。 H29年度:658団体(対前年度 + 3団体)うち実働549団体(83.4%) H30年度:660団体(対前年度 + 2団体)うち実働594団体(90.0%) R01年度:666団体(対前年度 + 6団体)うち実働547団体(82.1%)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・団体数だけでなく登録人数も増加傾向にあり、制度PR等の取り組みの成果が表れている。また、1団体あたりの登録人数も増加傾向にあり、各団体で新規参加者を募集する等により活動を拡大しようとしていることが窺える。 ・各団体のボランティア意識に支えられ、美化延長や草刈面積も拡大傾向がみられる。 ・地域コミュニティの維持、企業の社会貢献等にも一役買っている。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性
		・登録団体認定数及び実働団体数の増加が徐々に頭打ちとなりつつある。 ・制度が広く県内に定着し、飽和状態に近づいてきたことの流れとも考えられるが、一方で、同様の活動をしていながら登録されていない団体も存在する。 ・構成員の高齢化等もあり、思うように活動できない団体もある。 ・県政広報番組をはじめ様々な媒体を通じて広く県民に対し制度の周知を図り新規登録を促進する。 ・優良団体等への表彰についてもPRし、新規登録や活動継続の一助とする。 ・希望する団体には、団体名入りの表示板を活動地域の沿道に設置している。約300団体分を設置済。今後も希望する団体についてはすべて設置し、制度の周知と活動団体のモチベーション向上につなげていく。 ・団体数の純増を目指す一方で、長期にわたり活動実績がない等の団体について状況確認し、既に消滅している団体について整理(抹消等)も行っていく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

道路建設課

事務事業の名称		骨格幹線道路整備事業			
目的	誰(何)を対象として	県民・道路利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	高速道路と市町村中心部間や、県内外の都市間を、安全・快適に移動できる道路空間の形成		6,617,126	9,026,023
今年度の取組内容	高速道路整備によるストック効果を早期に全県に波及させるとともに、災害時や緊急時の輸送路として重要な役割を担う骨格幹線道路における、幅員狭小・線形不良区間等の未整備区間について、国庫補助事業や交付金事業、県単独の道路整備事業費を活用して2車線以上に整備する改良事業を推進する。 令和2年度は骨格幹線道路の新たな供用は予定していない。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	国に対し、必要な道路事業が着実に進められるよう、国庫補助事業や交付金などの予算を十分確保し、必要な事業が多く残された地方に重点配分されるよう要望を行った				
1	上位の施策	VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	骨格幹線道路の改良率【当該年度3月時点】	目標値		96.0	96.0	97.0	97.0	97.0	%	累計値
		実績値	96.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・県内の国・県道の改良率は、全国平均77.2%に対し、69.1%(全国38番目)と大きく下回っている。(平成30年4月1日現在の数値)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	令和元年度は、下記工区が供用開始され、安全・快適に移動できる道路空間が新たに形成された。 (主)川本波多線 竹工区 国道375号 湯抱2工区 国道488号 落合工区 国道488線 広瀬工区 上記4工区(骨格幹線道路)
課題分析	① 課題	・高速道路と市町村中心部間や県内外の都市間をつなぐ「骨格幹線道路」の整備が未完了であり、幅員狭小・線形不良区間がある。
	② 原因	・道路整備に必要な予算配分が出来るような、財源が確保出来ていない。
	③ 方向性	・国に対し、地域の実情に応じた予算が配分されるよう、より一層丁寧に状況を説明し、必要な予算が配分されるよう要望していく。 ・従来の「幹線道路」から真に優先整備すべき道路を「骨格幹線道路」として選択し、集中投資を行う。(新たな道路整備計画「島根の『つなぐ道プラン2020』」において公表する。)

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

道路建設課

事務事業の名称		生活関連道路整備事業			
目的	誰(何)を対象として	県民・道路利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういった状態を目指すのか	一定規模以上の集落や観光地等と骨格幹線道路や市町村中心部間を、安全・快適に移動できる道路空間の形成		12,552,019	18,029,779
			うち一般財源 (千円)	409,113	822,587
今年度の取組内容	地域の魅力・活力向上や小さな拠点づくりなど地域の課題解決に寄与する道路や、生活に密着する道路における、幅員狭小・線形不良区間等の未整備区間について、国庫補助事業や交付金事業、県単独の道路整備事業費を活用して2車線改良や1.5車線の改良による改良事業を推進する。 令和2年度は生活関連道路の供用を6.3km延長することを目指す。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	国に対し、必要な道路事業が着実に進められるよう、国庫補助事業や交付金などの予算を十分確保し、必要な事業が多く残された地方に重点配分されるよう要望を行った				
1	上位の施策	VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	生活関連道路(優先整備区間)の改良率【当該年度3月時点】	目標値		77.0	77.0	78.0	79.0	79.0	%	累計値
		実績値	77.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・県内の国・県道の改良率は、全国平均77.2%に対し、69.1%(全国38番目)と大きく下回っている。(平成30年4月1日現在の数値)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	令和元年度は、下記工区が供用開始され、安全・快適に移動できる道路空間が新たに形成された。 (主)安来伯太日南線 日立坂工区 (主)田所国府線 追原工区 (一)皆井田江津線 跡市工区 (一)益田種三隅線 東町工区 など、30工区
課題分析	① 課題	・地域の魅力・活力向上や小さな拠点づくり等の地域課題解消に寄与、生活に密着する「生活関連道路」の整備が未完了であり、幅員狭小・線形不良区間がある。
	② 原因	・道路整備に必要な予算配分が出来るような、財源が確保出来ていない。
	③ 方向性	・国に対し、地域の実情に応じた予算が配分されるよう、より一層丁寧に状況を説明し、必要な予算が配分されるよう要望していく。 ・道路の目的や地域特性に応じ、既存施設の有効活用を基本に、1.5車線の改良をはじめ様々な整備手法を組み合わせることにより、効率的・効果的な道路整備に取り組む。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

都市計画課

事務事業の名称		街路整備事業			
目的	誰(何)を対象として	市街地の街路利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	街路整備により、都市内移動を安全で快適にする。		2,047,375	3,463,644
			うち一般財源 (千円)	98,491	110,992
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の交通円滑化や地域間交流に資する、都市の骨格となる街路整備を進める。 安全で安心な歩行空間の確保のため、歩道整備を進める。 中心市街地の活性化に取り組む市町のまちづくりと連携した街路整備を進める。 歴史文化などの地域資源を生かした魅力あるまちづくりに資する街路整備を進める。 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 構想段階からの住民参加、説明会や広報活動を充実させる。 事業着手段階から、関係者との調整を充実させる。 用地先行取得制度を利用した機動的な用地確保に努める。 				
1	上位の施策	VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	街路整備率【当該年度3月時点】	目標値		74.6	74.6	74.7	74.8	75.1	%	累計値
		実績値	74.5							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 元町人麿線の橋梁上部工や神門通り線(2工区)の現地工事に着手するなど整備促進を図った。 あけぼの通り線において100mが改良済となった。 県内の幹線街路については、未だ整備されていない計画延長が103.959kmある。(R2.3.31現在) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	これまでの取り組みにより街路都決延長の7割が改良済みとなったことで、より多くの人々が安全で快適な都市内移動を享受できるようになった。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性